

今日も元気に！ お達者ライフ

Vol.71 新型コロナウイルス⑥



古泉 圭透 先生
こいずみ たまゆき

古泉循環器内科クリニック
◇所属学会 / 内科学会 循環器学会
糖尿病学会心臓病学会
日本透析学会
◇資格 / 日本医師会認定産業医
日本糖尿病協会登録医

1992年3月：弘前大学医学部卒業
2006年5月：医療法人ヒエタ会 石狩病院 内科部長として勤務
2007年4月：循環器科部長兼外来診療部長となる
2014年7月：古泉循環器内科クリニックを千歳市千代田町に開設

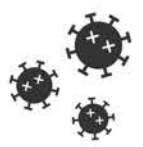
ちゃんとをご覧の皆様、こんにちは。新型コロナウイルスの感染拡大も、中々思うように収束せず、一年が経過しました。皆様、さぞかしご苦労されていることと存じます。そんな中、新型コロナウイルスのワクチン接種が開始され、医療従事者から、高齢者へと広がってきています。そこで、今日は、新型コロナワクチンのお話をしたいと思います。

ヒトの体には「免疫」といって一度体の中に入ってきた病原体が再び体の中に入ってきても病気にならないような仕組みがあります。この仕組みを利用するのがワクチンです。これまでは、弱毒化あるいは不活化した病原体を注射することで体の中に一度病原体の設計図のようなものを記録させて、病原体に感染しにくくなる状態を作り出してきました。そのため、軽い感染状態になる人も出てまいりました。しかし、今回の新型コロナウイルスのワクチンは、ウイルスそのものではなく、ウイルスの特徴のみを体に記憶させるというもので、ウイルスとは全く別のものなので、ワクチン接種によって新型コロナウイルスに感染する心配がない、という画期的な薬なのです。しかも有効率が、インフルエンザワクチンの70～80%に比べて、95%とかなり高くなっています。しかし、画期的ということは、未知の要素もあるため、100%の安全性が担保されているわけではなく、ワクチンを打ちたくないという方もいらっしゃるようです。



これまで日本では医療従事者を中心に249万人(4月29日時点)、2回接種完了者が99万人を超えています。筆者も遅まきながら5月1日に1回目のワクチン接種を終えています。これまで報告されている死亡例は19例ですが、基礎疾患を有する高齢者が多く今の所、安全性に重大な懸念は認められないと評価されています。また、アメリカではワクチン接種した人と、していない人での疾患の発生頻度を比較していますが現在のところ、アナフィラキシー以外に重要なものはないとのこと。主な副反応として、接種部の疼痛、倦怠感、頭痛、発熱があります。1回目の接種より2回目の接種で副反応が多く見られていますが、4日目以上長引くことは少ないようです。

新型コロナワクチンの接種をすごく待望している人や、できれば打ちたくない人もいて、たくさんの情報が錯綜しているのが現状だと思います。他人の噂話を鵜呑みにせず、きちんとした情報を得て判断してほしいと思います。



第47回

新型コロナウイルスワクチン②

中国武漢市で発生した謎の肺炎が2020年初頭、新型コロナウイルスによることが判明したときから、ワクチン開発がスタートしました。

それから1年が経ち、世界中で数種類のワクチン接種が開始されています。日本で現在使われているワクチンは、アメリカのファイザー社製で、感染確率を95%減らせると報告されており、経済活動を止めずに感染を抑制できる手段として注目されています。

ワクチンで懸念される副反応については、重篤なアナフィラキシーは一般の薬剤と比べて特段多いわけではないことがわかっています。ただし、接種後48時間程度の間にかかる、局所の疼痛や全身倦怠感、発熱、関節痛といった、抗体産生の際にかかる炎症反応については、比較的頻度が多く、程度も強いといわれており、数日間は注意が必要です。

ワクチンによる感染制圧が成功するか否かについては、複数の不確定要素があります。

まず第一に、ワクチン接種数です。感染症数理モデルによると現行の新型コロナウイルス感染力では、人口の7割程度が免疫を持たないと、抑え込めないといわれています。国民一人一人が、社会の一員として感染抑制のためワクチン接種をすることが大事です。

次に、ワクチンの効果持続期間です。産生された抗体の持続は半年ま

ちとせの介護医療連携の会

介護、医療の現場から シニアライフサポート

市立千歳市民病院 循環器科 主任医長 小岩 弘明



では確認されていますが、その後は未知です。初期のワクチン接種者の感染予防効果がなくなる前に集団全体のワクチン接種を完了しないと、感染が抑えられない可能性があります。現在ワクチンの接種時期について見通しがつきにくく、ワクチンを接種するまでの期間が長期化するほど、ワクチン不応変異株の出現リスクが高まります。

ワクチン戦略成功の唯一の鍵は、より多くの人により短期間でワクチンを接種し、ウイルスの変異速度より迅速に対応出来るかが今後の鍵となります。その為行政はワクチン供給を安定化させ、接種の流れを簡素化し、現場の負担を少なくワクチン接種をすすめていく体制を整えることが求められています。

新型コロナウイルス感染症は、単に病気の原因となるだけでなく、社会全体に大きな打撃を与えています。この先数年、多くの犠牲を払いながら、ウイルスと共存する社会を作っていくか、社会生活の制限がないゼロコロナの社会となるのかは、ワクチン戦略の成否にかかっていると、いっても過言ではありません。